

<< 注 意 報 >>

岡 病 防 第 4 号
令和 6 年 5 月 10 日

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報の発表

病害虫発生予察注意報第 1 号を下記のとおり発表したので送付します。

令和 6 年度病害虫発生予察注意報第 1 号

令和 6 年 5 月 10 日
岡 山 県

病害虫名 **果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）**

1. 発生が予想される地域
県内全域のモモ、ナシ等

2. 発生が予想される時期
5月～7月

3. 予想される発生量
多

4. 注意報発表の根拠

(1) 赤磐市の集合フェロモントラップにおける 4 月 21 日～5 月 5 日の **チャバネアオカメムシ誘殺数は 159 頭と平年 (68.0 頭) より多い**。また、同期間の予察灯における **チャバネアオカメムシ誘殺数は 36 頭と平年 (4.1 頭) に比べ多い**。

(2) 5 月 8 日の巡回調査におけるモモでの被害程度は軽微であったが、**被害発生ほ場率は 25.0%で平年 (3.9%) より高い**。

(3) 広島地方気象台が 4 月 23 日に発表した 3 か月予報によると、今後の気温は平年より高いとされており、飛来に好適な条件であると考えられる。

5. 防除対策及び防除上の参考事項

(1) モモ、ナシでは「袋掛けまで」と、「袋掛け後の肥大～成熟期（袋と果実が密着し、カメムシ類が袋の上から吸汁可能となる）」の果実被害が懸念される。

(2) 幼果期から収穫期まで、カメムシ類の発生に応じて薬剤散布を行う。モモ、ナシにおける防除薬剤は表 1 及び表 2 による。

(3) 袋掛け作業を遅れないように行う。

(4) 黄色灯の点灯はチャバネアオカメムシに対して忌避効果がある。ただし、クサギカメムシには効果がないこと、カメムシの発生が多いと十分な効果を得られないこと等から、薬剤防除を徹底する。

(5) 樹全体に目合い 4 mm 以下のネットを掛けてカメムシ類の寄生を防ぐ。ただし、すでにカメムシ類が寄生している樹にネットを掛けると大きな被害を受けるので、ネットを掛ける前に薬剤散布を行う。

- (6) 薬剤の散布にあたっては農薬使用基準を順守し、人畜、水産動物等への危害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。
- (7) 最新の農薬登録情報は、農林水産省ホームページの農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp/>) で確認できる。

表1 モモのカメムシ類の防除に使用する主な薬剤（令和6年5月7日登録状況確認）

農薬の名称	農薬使用基準			IRAC ²⁾ コード	
	使用時期	希釈倍数	使用回数		
アーデント水和剤 ¹⁾	収穫前日まで	1,000倍	3回以内	3A ³⁾	
アーデントフロアブル ¹⁾	収穫前日まで	2,000倍	3回以内		
アグロスリン水和剤 ¹⁾	収穫前日まで	1,000～2,000倍	5回以内		
アディオン乳剤 ¹⁾	収穫7日前まで	2,000倍	6回以内		
テルスター水和剤 ¹⁾	収穫14日前まで	1,000倍	2回以内		
テルスターフロアブル ¹⁾	収穫前日まで	3,000倍	2回以内		
イカズチWDG ¹⁾	収穫前日まで	1,500倍	5回以内		
ロディー乳剤 ¹⁾	収穫前日まで	1,000～2,000倍	5回以内		
アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内		4A
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで	5,000～10,000倍	2回以内		
アドマイヤー水和剤	収穫3日前まで	1,000倍	2回以内		
アドマイヤーフロアブル	収穫3日前まで	5,000倍	2回以内		
スタークル/アルパ ¹⁾ リン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内		
ダントツ水溶剤	収穫7日前まで	2,000～4,000倍	3回以内		
モスピ ¹⁾ リン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000～4,000倍	3回以内		
テッパン液剤	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	28	
キックオフ顆粒水和剤 ^{1) 4)}	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	28/4A	

1) 水産動植物に対して毒性があるため養魚場周辺などで使用しない。

2) IRACによる農薬有効成分の作用機構の分類。

3) IRACコード3Aはピレスロイド系で天敵類への悪影響が大きく、ハダニ類、サビダニ類を多発させる恐れがあるので多用を控える。

4) 有効成分がクロラントラニプロールとジノテフランであることから、サムコルフロアブル10やスタークル/アルパリン顆粒水溶剤と併用する場合、有効成分の総使用回数を遵守する。

表2 ナシのカメムシ類の防除に使用する主な薬剤（令和6年5月7日登録状況確認）

農薬の名称	農薬使用基準			IRAC ²⁾ コード	
	使用時期	希釈倍数	使用回数		
アーデントフロアブル ¹⁾	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	3A ³⁾	
アーデント水和剤 ¹⁾	収穫7日前まで	1,000倍	3回以内		
アグロスリン水和剤 ¹⁾	収穫前日まで	1,000～2,000倍	3回以内		
アディオフロアブル ¹⁾	収穫前日まで	1,500倍	2回以内		
アディオ乳剤 ¹⁾	収穫前日まで	2,000倍	2回以内		
サイハロン水和剤 ¹⁾	収穫7日前まで	2,000倍	3回以内		
スカウトフロアブル ¹⁾	収穫前日まで	1,500倍	5回以内		
テルスター水和剤 ¹⁾	収穫前日まで	1,000～2,000倍	2回以内		
テルスターフロアブル ¹⁾	収穫前日まで	3,000～6,000倍	2回以内		
マブリックEW／水和剤20 ¹⁾	収穫30日前まで	2,000倍	2回以内		
ロディーWDG ¹⁾	収穫前日まで	1,000～1,500倍	2回以内		
ロディー水和剤 ¹⁾	収穫前日まで	1,000倍	2回以内		
イカズチWDG ¹⁾	収穫前日まで	1,500倍	3回以内		
アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内		4A
アドマイヤー水和剤	収穫3日前まで	1,000倍	2回以内		
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで	5,000～10,000倍	2回以内		
スタークル／アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内		
ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2,000～4,000倍	3回以内		
バリアード顆粒水和剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内		
ベストガード水溶剤	収穫14日前まで	1,000～2,000倍	3回以内		
モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000～4,000倍	3回以内		
テッパン液剤	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	28	
キックオフ顆粒水和剤 ^{1) 4)}	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	28/4A	

1) 水産動植物に対して毒性があるため養魚場周辺などで使用しない。

2) IRACによる農薬有効成分の作用機構の分類。

3) IRACコード3Aはピレスロイド系で天敵類への悪影響が大きく、ハダニ類、サビダニ類を多発させる恐れがあるので多用を控える。

4) 有効成分がクロラントラニリプロールとジノテフランであることから、サムコルフロアブル10やスタークル／アルバリン顆粒水溶剤と併用する場合、有効成分の総使用回数を遵守する。

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を確認し厳守するとともに、農薬飛散に注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

(参考) この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

